

特殊相対論問題 (阪上)

2012年1月24日

[1] 真空中の Maxwell 方程式は、電場 $\mathbf{E} = (E_x, E_y, E_z)$ 、磁場 $\mathbf{B} = (B_x, B_y, B_z)$ 、電荷密度 ρ 、電流密度 $\mathbf{j} = (j_x, j_y, j_z)$ に対して

$$\begin{aligned} \operatorname{div} \mathbf{E} &= \rho / \epsilon_0 \\ \operatorname{rot} \mathbf{B} - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t} &= \mu_0 \mathbf{j} \\ \operatorname{div} \mathbf{B} &= 0 \\ \operatorname{rot} \mathbf{E} + \frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} &= 0 \end{aligned}$$

と与えられる。ただし、 ϵ_0, μ_0 は真空の誘電率、透磁率であり

$$\epsilon_0 \mu_0 = 1/c^2, \quad c: \text{光速}$$

を満たす。特殊相対論では電場と磁場は電磁場テンソル、

$$f_{\mu\nu} = \begin{pmatrix} 0 & -E_x/c & -E_y/c & -E_z/c \\ E_x/c & 0 & B_z & -B_y \\ E_y/c & -B_z & 0 & B_x \\ E_z/c & B_y & -B_x & 0 \end{pmatrix}$$

また電荷と電流は4元電流ベクトル

$$j^\mu = (c\rho, j_x, j_y, j_z)$$

を用いて表されることが知られている。

このとき Maxwell 方程式が次のように Lorentz 共変な形に書き換えられることを示しなさい。

$$\partial_\nu f^{\mu\nu} = \mu_0 j^\mu$$

$$\partial_\nu {}^*f^{\mu\nu} = 0$$

ただし、 ${}^*f^{\mu\nu}$ は4階完全反対称テンソル密度 $\epsilon^{\mu\nu\rho\sigma}$ を用いて

$${}^*f^{\mu\nu} = \frac{1}{2} \epsilon^{\mu\nu\rho\sigma} f_{\rho\sigma}$$

と定義される。

$${}^*f^{\mu\nu} = \begin{pmatrix} 0 & -B_x & -B_y & -B_z \\ B_x & 0 & 0 & 0 \\ B_y & -E_z/c & 0 & 0 \\ B_z & -E_y/c & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

[2] 座標系 $S(t, x, y, z)$ に対して x 方向に相対速度 v で運動している座標系 $S'(t', x', y', z')$ を考える。光速不変の原理から Lorentz 変換 (boost)

$$ct' = \gamma(ct - \beta x), \quad \gamma = \frac{1}{\sqrt{1 - \beta^2}}, \quad \beta = v/c$$

同時性をかく $x' = \gamma(x - \beta ct), \quad y' = y, \quad z' = z$

が導かれる。この boost を用いて、(1) 同時刻の相対性 および (2) Lorentz 収縮 の 2 つを説明しなさい。

[3] 下図のような振動数 ν 、波長 λ の光子と静止している電子の $x-y$ 平面内での衝突 (コンプトン散乱) を考える。衝突により光子は x 軸からの角度 θ の方向に散乱され、振動数 ν' 、波長 λ' に変化した。また電子の質量は m 、プランク定数を h とする。以下の設問に答えなさい。

- (a) ある粒子のエネルギーを E 、運動量を $\mathbf{p} = (p_x, p_y, p_z)$ とすると 4 元運動量は $p^\mu = (E/c, p_x, p_y, p_z)$ で与えられる。衝突前の光子と電子の 4 元運動量を p^μ, q^μ 、衝突後の光子と電子の 4 元運動量を p'^μ, q'^μ とする。このとき

$$p^\mu = \left(\frac{h\nu}{c}, \frac{h\nu}{c} \cos \theta, \frac{h\nu}{c} \sin \theta, 0 \right), \quad q^\mu = (mc, 0, 0, 0), \quad p'^\mu = \left(\frac{h\nu'}{c}, \frac{h\nu'}{c} \cos \theta, \frac{h\nu'}{c} \sin \theta, 0 \right)$$

と与えられることを示しなさい。

- (b) 光子の質量がゼロであることを示しなさい。

- (c) 4 元運動量の保存則, $p^\mu + q^\mu = p'^\mu + q'^\mu$ から衝突前後での波長の関係式

$$\lambda' - \lambda = \frac{h}{mc} (1 - \cos \theta)$$

を導きなさい。

